

139. 標識 α -fetoprotein 抗体による肝癌の診断に関する実験的研究

九州大学 放射線科

寺嶋 広美 榎殿 玲子 渡辺 克司

松浦 啓一

同 細菌

野本亀久雄

同 薬

河野 彬

抗腫瘍抗体に RI を標識し、特異的に腫瘍に集めようとする試みは、既に数多く報告されている。我々は、肝癌細胞が分泌する α -fetoprotein に対する抗体を作り、それに ^{131}I および ^{125}I を標識し、標識 α -fetoprotein 抗体が肝癌部分に取込まれるか否かを検討した。 α -fetoprotein を分泌するラット肝癌 AH66C 4 を用いて一連の基礎的実験を行なった。

実験の方法は次の通りである。ウマ抗ラット α -fetoprotein 抗体をラットリンパ節、脾臓細胞にて吸収し、硫酸アンモニウムによる塩析法により粗 IgG を分離、更にセルロースカラム法により IgG を精製した。IgG にクロラミンT法により、 ^{125}I 、 ^{131}I を標識し、コロジオンバッグにより透析、濃縮を行った。

得られた標識ウマ抗ラット α -fetoprotein 抗体と AH66C 4 細胞を12時間 incubate し、マイクロオートラジオグラフィーを行なった。また、ラットの大腿部に AH66C 4 細胞を移植し、4週間後、ラットの尾静脈より標識抗体を注入し、シンチカメラで腫瘍部への集積状況および臓器内分布を経時的に調べた。その結果、マイクロオートラジオグラムでは、腫瘍細胞の周辺に著明な雲状の RI の集積像を認め標識抗体が結合していることを確認した。シンチカメラ像では、腫瘍部への RI の集積は明きらかでなかった。

140. 担癌生体における血中 Ig-E 値について

東北大学 放射線科

中村 護 阿部 光延 沢井 義一

80例の担癌生体において、血中 Ig-E 値を測定した。対照として正常人30例、気管支喘息患者90例について測定を行った。測定は Pharmacia 製 Radioimmunoassay Kit によった。正常人では 1001u/ml 以上の値を示すものではなく 201~400u/ml の間に50%、101~200u/ml の間には36.6%の人が存在した。喘息患者では 1001u/ml 以上の人が52.2%を占めており74.4%が 401u/ml 以上の値を示した癌患者では 200u/ml 以下の人が51.3%であったが 401u/ml 以上の値を示す人も25%存在した。